

## 5 茶

### ① 茶（成木園）

#### 【栽培暦】

作物名	作型等	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
茶	せん茶・ 一、二番茶 摘採			春肥 ◆	芽出し肥 ◇		夏肥 ◇		秋肥 ※◆						800
茶	せん茶・ 一番茶摘採			春肥 ◆	芽出し肥 ◇		一番茶 ×-×	二番茶 ×		秋肥 ※◆					500

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ※土作り(堆肥、石灰・苦土資材)

#### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型等	栽植様式		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
せん茶・ 一、二番茶 摘採	一条植え・ 複条植え 1,800～ 2,200本/ 10a	春肥	9	7.2	9	夏肥は窒素成分を主体とした速効性肥料を使用する。 施肥回数を減らすため、硝化抑制剤入り肥料や被覆肥料など緩効性肥料を春、夏の年2回施用してもよい。(春肥18-8-9、秋肥18-8-9 合計36-16-18)
		芽出し肥	9	0	0	
		夏肥	9	3.6	4.5	
		秋肥	18	7.2	9	
		合計	45	18	22.5	
せん茶・ 一番茶摘採	一条植え・ 複条植え 1,800～ 2,200本/ 10a	春肥	12	6	7.5	
		芽出し肥	6	0	0	
		秋肥	12	6	7.5	
		合計	30	12	15	

#### 【土壌・施肥管理】

##### 1 土づくり

- ア 家畜ふん堆肥等の良質堆肥を1トン/10a施用する。
- イ 事前の土壌診断を基にpHが4.0～5.0になるよう本ほの酸度矯正を行う。
- ウ 堆肥、石灰・苦土資材は秋肥前に施用し、秋肥との間隔を1週間以上空ける。

##### 2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ 幼木園の施肥量は定植当年は成木園の15%、2年目は50%それ以後1年ごとに10%ずつ増やす。
- ウ 化成肥料の1回当たりの施用量は窒素成分で15kg/10aを限度とする。  
施肥後は必ず土と混和し、降雨による流亡、空気中への揮散などを防ぐ。
- エ 春肥及び秋肥は油粕や魚粕などの有機質肥料を主体とする。
- オ 芽出し肥は速効性肥料を使用する。

##### 3 その他

- ア 秋肥前に深耕等によりうね間土壌の物理性を改善する。